

戦争を体験した人々の思い

1 対象学年 小学6年生

2 ねらい

子どもたちの祖父母にも戦争を体験した人が少なくなってきたため、戦争が恐ろしいものであることを知る子どもは少ない。戦争の恐ろしさを知り、平和についてしっかりと考えていく必要がある。

そこで、本実践では、読み物資料や映像資料から戦争による被害を知る。そして、戦争体験者が戦争に対してどのような思いをもっているか考える活動を行う。その後、戦争体験者が、「同じ過ちを犯してほしくない」という思いをもっていることを読み物資料や映像資料から理解し、戦争体験者に手紙を書くという活動を通して、戦争や平和に対する自分なりの考えをもつようにする。

3 指導の流れ

(1) 準備

読み物資料「焼け跡に立つ虹」 映像資料「戦争体験者へのインタビュー」 ワークシート

読み物資料 「焼け跡に立つ虹」 著・出版 愛知県教員組合

「耳にひびくサイレンの音」(P.20～P.25)

空襲を受けた時の様子が詳しく書かれている。この話を読むことで、戦争体験者の思いを知ることができる。



(2) 指導過程

時間	学習活動	指導上の留意点
10分	<p>1 戦争について知っていることを話し合い、戦争について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>① 戦争とは何か。</p> <p>② 戦争をしている時、人々はどんな生活をしていたのか。</p> <p>③ 戦争をしている時の人々の思い。</p> </div>	<p>○ 戦争について知っていることを3つのテーマに分けて発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される子どもの反応】</p> <p>① 「外国と戦うこと」「人々が殺し合う」</p> <p>② 「国民が戦争に参加させられた」「ぜいたくできなかった」「防空壕が作られた」</p> <p>③ 「外国に勝つぞ」「早く戦争が終わってほしい」</p> </div>
<p>本時の課題：戦争を体験した人々の思いを知り、自分なりの考えをもとう！</p>		
7分	<p>2 読み物資料の一部を読んで、当時の様子を知る。</p>	<p>○ 読み物資料を配付し、教師が範読する。</p> <p>○ 難しい用語は補足して説明をする。</p> <p>○ 空襲時の防空壕の中の様子や、疎開先での生活など戦争によって苦しい生活を強いられていることをとらえさせる。</p>
18分 (3分)	<p>3 戦争体験者の思いを考える。</p> <p>(1) 戦争体験者へのインタビュー映像を観て、戦争の恐ろしさを知る。</p>	<p>○ 教師の親戚（義理の祖母）にインタビューした映像を観せる。</p> <p>○ 電車に乗っているときに艦載機に襲われたことや、その時に母親がけがをしたことを知り、戦争の恐ろしさをとらえさせる。</p>

(12分)	(2) 戦争体験者の今の世の中に対する思いを考え、発表する。	○ 戦争を体験し、恐ろしさを知っている人が、今の世の中をどう思っているのか考え、ワークシートに記入する。
(3分)	(3) 読み物資料の最後の部分を読み、戦争体験者の思いを知る。	○ 読み物資料の最後の部分にある、戦争体験者の思いを読む。
<p>～読み物資料の最後の部分（戦争体験者の思い）～</p> <p>「私はこの文章を読んでもくれた人が、一人でも戦争の恐ろしさ、悲しさがわかってくれば、私はたいへんうれしい。人間の心をくるわし、人々を地獄の底につき落とすような戦争は、二度とくり返してはならない。平和は、人間の永遠の願いである。みんなの力で<u>戦争のない世の中</u>を実現させようではないか。」</p>		
9分	4 戦争体験者に対する手紙を書いて、発表する。	○ 戦争の恐ろしさや戦争体験者の思いを知って、自分がどう思ったかを手紙に表す。 ○ 戦争についての自分なりの考えや平和のために自分にできることを書くとよいことを伝える。 ○ 戦争体験者（教師の親戚）に手紙を実際に渡すことを伝える。
1分	5 振り返る。	○ 教師が指名し、発表させる。 ○ 本時の学習を振り返り、戦争や平和に対する自分なりの考えをもつことができたことを確認する。

4 実践のまとめ

(1) 戦争について考える

戦争について知っていることを発表し合った。子どもたちからは、当時は貧しい生活をしていて、国のために人々がかりだされ、自由を奪われていたという意見が出た。また、当時の人々の思いを考えさせると、早く戦争が終わってほしいという思いをもっていたと考える子どもが多くいた。戦時中の生活や人々の思いを、クラスで共有することができた。

(2) 読み物資料の一部を読んで、当時の様子を知る

資料を配付し、教師が範読した。資料には空襲を受けたときの様子が詳しく書かれており、資料を読み終わると、「恐いなあ」という声も聞こえた。当時の恐ろしさが伝わっている様子であった。

(3) 戦争体験者の思いを考える

教師が戦争体験者である義理の祖母（愛知県豊橋市在住）にインタビューした映像を観た。電車に乗っているときに、艦載機に襲われて、2両編成の後ろの車両が襲われたこと、その後、森へ逃げ込んだが、さらに艦載機に襲われ、前を走っていた青年が撃たれて亡くなってしまったこと、そして、自分の前を走っていた母親も肩を

戦時中は貧しい生活をしていました。



【意見を発表している様子】



【読み物資料の範読を聞く様子】

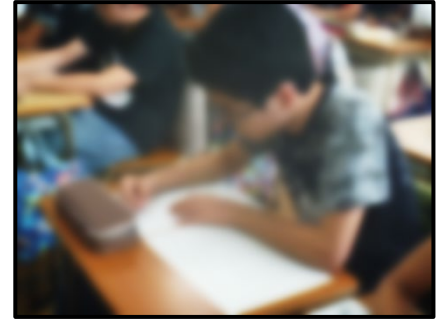
撃たれたことをインタビューで聞くことができた。教師の親戚であり、同じ愛知県に住んでいるということもあり、子どもたちは戦争をより身近なこととして考えている様子であった。

戦争の恐ろしさを知ったところで、戦争を体験した人々が今の世の中をどのように思っているのか考えさせた。「戦争の恐ろしさをみんなが知って、二度と戦争を起こさないでほしい」「日本は戦争をしていないので平和になった」という考えをもつ子どもが多かった。読み物資料や映像資料によって当時の人々の過酷な生活を想像することができ、「戦争を起こしてはいけない」という考えをもつことができた。

その後、読み物資料の最後の部分を読み、筆者の思いを知った。戦争体験者もやはり戦争は二度と起きてはいけないと考えていることを知ることができた。



【映像資料を観る様子】



【戦争体験者の思いを考える様子】

今、戦争を知らない人に一人でも戦争のおそろしさを
してもらって、もう一生戦争がない日本にしたい

今の世の中、また戦争が始まってたくさんの人たちが
きせいになるかもしれない。けれど、私たちのような
経験した人が次の世代に伝わって戦争が二度と
ない世界になってほしい。

【子どもたちが考えた
戦争体験者の思い】

(4) 戦争体験者に対する手紙を書く

最後に、戦争体験者に手紙を書く活動を行った。戦争の恐ろしさを知って、戦争に対してどのような思いをもったのかを、一人ひとりが手紙に書き綴った。戦争の悲惨さを知っただけでなく、その悲惨さを次の世代に伝えていかなければいけないと考える子どももいた。また、自分たちも少しでも争いを起こさないように生活していきたいという思いを書く子どももいた。一人ひとりが戦争や平和について自分なりの考えをもてたことが、手紙からわかった。

私は今平和な世の中で暮らしています。それを今あたり
まえと思っています。そのように思っている人が多いと思いま
した。ですが、大谷さんのインタビューを見て「戦争のおそろしさ、
「罪のない人がきせいになってしまったこと」がよく分かりました。
大谷さんのような、体験者に話してもらって次の世代
に伝えていければいいなと私も思います。これをきき、
戦争を忘れず、自分から進んで知っていくことが
今私に出来ることの別歩だと思いました。

私は戦争のことを改めておそろしく悲しいことだと思いました。
私は戦争を経験してないのでくわしいことは言えませんが
「おそろしく、地獄のようなもの」とは体験してなくてもわかること
だと思います。戦争は絶対にはいけないと思うし戦争を
させてはいけないと思います。なのでそのために私たちができることは
小さいことだけどいろんな人と仲よし、できるだけけんかをしたり
争いもしないようにしていきます。あと戦争のことは絶
対に忘れないようにします。

5 実践の成果と課題

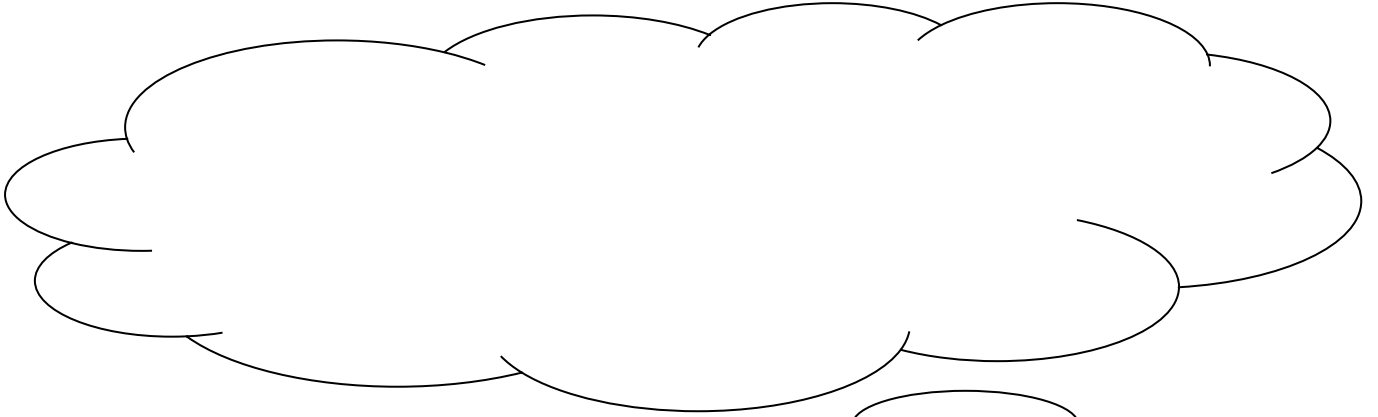
今回の実践では、読み物資料や映像資料を使ったことで、子どもたちが戦争の恐ろしさをより身近なこととして考えることができた。また、戦争体験者の思いを考える場面や手紙を書く場面では、戦争の恐ろしさを知ったことにより、戦争体験者の立場に立って思いを考えたり手紙を書いたりすることができた。そのため、読み物資料や映像資料は、戦争や平和について考えるために有効であったと考える。

今後は、戦争や平和について考えるだけでなく、平和に対する一人ひとりの取り組みについて考えさせていきたい。



～戦争を体験した人々の思い～

番 名前

◎ 戦争体験者は、今の世の中をどう思っているのだろうか。その思いを考えよう。



◎ 戦争体験者に手紙を書こう。

さん へ	
	 より